

令和4年度(2022年度)第3回川口中学校区地域づくり推進会議 議事概要

日時	令和4年(2022年)7月24日(日)9:30~12:00
場所	川口中学校1階 被服室
出席者	参加者:荒井、荒木、稲原、白鳥(信)、高野、外山、内藤(佳)、内藤(妙)、内藤(ト)、中尾、中村、平井、古田、前川、安田、 高齢者あんしん相談センター川口:小林 高齢者あんしん相談センター恩方:長内 第1層生活支援コーディネーター:今泉 元八王子事務所長:成田 デジタル推進室:倉田 防災課:菅野 環境政策課:峯岸 川口中学校校長:鷲尾 未来デザイン室:野田、牧瀬 RPI:岩崎、高尾、伊藤
見学者	八王子未来 CAN-VAS:石井 町会・自治会防犯灯担当課長:塩澤 市立小学校 PTA 連合会会長:新庄 大学生:瀬谷
配布資料	・令和4年度(2022年度)第3回川口中学校区地域づくり推進会議資料 ・資料1-1 八王子市デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進計画(概要版) ・資料1-2 DXとは何か ・資料2-1 八王子市ゼロカーボンシティ実現に向けて ・資料2-2 はちエコポイント ・資料2-3 環境市民会議募集チラシ ・資料3 地域防災に関する取組 ・「東京都家庭のゼロエミッション行動推進事業」パンフレット ・「市長と語る」パンフレット ・令和4年度(2022年度)第2回川口中学校区地域づくり推進会議議事概要(案)

1 開会

未来デザイン室から挨拶。

2 本日の議題確認

会議資料をもとに、本日の検討事項を確認した。

3 議題

(1) 共通テーマに関する情報を共有しよう

会議資料をもとに、地域づくり推進会議(以下、「推進会議」という。)として取り組む共通テーマのうち、「DX(デジタル・トランスフォーメーション)」「カーボンニュートラル」「地域防災」について、担当所管課から

説明し、質疑応答を行った。各テーマに対する参加者からの主な質問は、以下のとおり。

<DX>

・町会の回覧は月に数枚程度だが、市から依頼される配布物が非常に多い。市全体として回覧板にDXを取り入れ、紙の回覧物を削減する方向性はあるのか。回覧板には、隣近所との顔の見える関係づくりにつながる面もある。

今後、回覧物の電子化については、関連する担当所管課と検討していく必要がある。デジタルを使うことが目的ではないため、より良い方法を模索していきたい。(デジタル推進室)

・web会議を開催することで自治会の会員が増えるという説明があったが、自治会の会員が増えないのは別の理由である。自治会に加入しているのは、26万世帯中11万世帯程度。今後、町会・自治会のあり方自体をどうするかが問題になってくる。

DXを説明するに当たっての一例として考えて頂きたい。(未来デザイン室)

・自分が加入している町会において、回覧物の内訳を集計したところ、町会の回覧物は月当たり2通程度であるのに対し、市をはじめとする様々な団体から依頼される回覧物は年間180件以上ある。今年の八王子まつりも、全戸配布で膨大な資料が配布されているが、SDGsの観点から改善する必要があるのではないかと。

庁内に周知していきたい。(デジタル推進室)

<カーボンニュートラル>

・資料に八王子市の排出量は記載されているが、吸収量はどのくらいなのか。

吸収量の算出は市単独で算出していない。八王子市は緑が豊かなので、都内の自治体のなかでは、吸収量が多い方だと考えられる。(環境政策課)

・市内の緑地の面積から概算をし、市民に周知できるのではないかと。排出量だけでなく、緑地面積や吸収量は重要な要素である。

・2050年に二酸化炭素実質排出ゼロにするためのターゲットは設定しているのか。また、一つの部門をゼロにするという目標なのか。

今回、説明したのは家庭部門だが、市全体で目指しているため、全ての分野で取り組んでいく必要があると考えている。(環境政策課)

・“温室効果ガスを減らす”ということ、言葉だけではなく現実にするためには、庁内の関連する所管課との連携体制を構築する必要があるのではないかと。木は30年以上経過すると、二酸化炭素の吸収量が少なくなると言われている。新しい木を育てて、効果を上げる方法も検討した方が良さそう。

・産業部門の排出量は、減少しているのか。

著しく減少しているわけではないが、新しい技術を取り入れることができる部門は改善している可能性が高い。家電製品は新しく買い替えると節電・節水に繋がるものも多く、一人ひとりの取組が重要。市としてはゼロカーボンシティ宣言により気運を高め、関連する所管課との連携をとっていきたい。(環境政策課)

意識の変化・生活の変化のために地域でできることはないかと、推進会議を通して一緒に考えていきたい。(未来デザイン室)

・市が計画する太陽光パネルの導入はどのような制度になるのか。

地球温暖化対策地域推進計画は、今年度末に公表予定なので、その中でお示しする予定である。太陽光パネルの設置は初期費用が100万円位かかるが、リース方式により初期費用を実質無料にする方法もある。検討している人の要望に合わせたプランの提供などを行う予定である。(環境政策課)

< 地域防災 >

- ・意見・質問なし

(2) アクションプランを検討しよう

会議資料をもとに、「地域の担い手の育成」につながる具体的な取組方法について、これまでの活動の中で既に取り組んでいることや工夫、今後に向けたアイデアをグループに分かれて検討し、その後、全体に発表した。全体への報告概要は以下のとおり。

< A グループ >

- ・PTA には、地域活動に参加したい気持ちがあっても子どもを預けられず、参加できない人がいる。子どもを預けられる場所が必要となる。また、働く人も参加しやすい時間帯で実施した方が良い。
- ・中学生・高校生・大学生の力を活用してはどうか。特に高校生は災害の際の戦力になるため、消防団の紹介等を通し現状を知ってもらう取組が重要。海外のように、ボランティアがポイント(単位)となることや、就職時に有利になるようなシステムがあれば良い。
- ・ボランティアで取り組むには限界があるため、有償ボランティアも検討するべき。人材バンクによる登録制度をつくり、できることを分担すれば、すき間時間を活用できる。一人の負担が重くならない工夫が必要。

< B グループ >

- ・活動のための資金(組織としての予算)の確保が必要。
- ・ボランティアの有償化が必要。生活を賄えるほどの金額が必要ということではない。
- ・有償化が難しければ、助け合いをポイント制度で行うといったやり方を導入してはどうか。
- ・組織の必要性、組織活動のメリットを明確にし、ターゲット(若年層)に向けて発信する。
- ・参加しやすい仕組みをつくる必要がある。(会費の減少、Zoom などを活用した会議開催、参加できない方への資料配布に LINE 等を活用、食事や賞品などの提供 等)
- ・他の団体の参加者から引き込むことも有効。

各グループの発表を整理すると、「地域の担い手の育成」のイメージは、これまで地域活動に参加することができなかった、声をかけてこなかった方々を巻き込んでいくような取組ではないか。次回以降は、共通テーマと合わせて、さらに検討を深めていきたい。(未来デザイン室)

(3) 部会活動の共有と「運営担当」の決定

会議資料をもとに、部会運営についての情報共有及び各部会から2名ずつ「運営担当」の選出を行い、その後、全体に発表を行った。全体への報告概要は以下のとおり。

< コミュニティカレンダー部会 >

- ・第1号を発行したことにより見えた課題として、以下の点が挙げられる。
 - カレンダーを受け取った住民がどう感じているのかの確認が必要。
 - 町会や子ども会等のイベントに関しては、会員以外の参加や人が集まりすぎることを懸念する声もあり、掲載する情報の精査が必要。
 - 印刷費や紙代といった予算の問題。
 - リアルタイムの情報を求めると、更新に負担がかかる。
 - 何のためのコミュニティカレンダーなのか、原点回帰が必要。
 - 運営担当は、外山、古田に決定。

< マルシェ部会 >

- ・6月以降は、部会を開いていないが、運営の参考として他のマルシェの見学などを行った。次回の部

会は、本日の夜に開催予定。議題は、今年はやまゆり館祭りへの参加店舗の分野等の共有。

・川口マルシェで出店したい店舗として、パン・果物、趣味のものの販売、ウクライナへの支援等の意見が出ている。

・第1回は、試行的にやまゆり館祭りで開催するが、今後、より多くの人にアピールするためには、まずは会場を検討するとともに、マルシェ開催に支障をきたす狭い道を封鎖するなど、地域全体で協力しながら大規模に開催することも考える必要があるのでは。

マルシェの今後の展開については、11月の川口マルシェ開催後に全体で検討していきたい。(RPI)

・運営担当は、中村、平井に決定。

<全体>

・今後、地域主体の運営を目指す上では、各部会の代表だけでなく、全体的な会議運営を俯瞰できる人も運営担当に入れてはどうか。その参加者は、荒井氏、荒木氏が適切ではないか。

・今のご提案を含めると、運営担当は6名ということになるが、その形で良いか。(RPI)

異議なし。(参加者)

(4) 令和4年度(2020年度)の活動予算

会議資料をもとに、今年度取り組んでいる「優先的アクションプラン」は「地域主体でできること」「お金がかからないこと」を前提に検討していたが、活動の中で必要な消耗品等については、未来デザイン室で一定確保しているため、随時連絡をいただきたいこと、今後も推進会議としての予算の確保に努めていく旨の説明を行った。

(5) より良い推進会議とするための意見交換・情報共有

会議資料をもとに、今後の推進会議に向けて、意見交換を行った。主な内容は以下のとおり。

<全体>

・担当所管課からの説明は、今後もあるのか。

今回は、市として設定した共通テーマに関する内容について説明を行った。今後、追加テーマや参加者から希望があった際には、必要に応じて所管課が参加できるよう調整したい。(未来デザイン室)

・共通テーマの説明が長く、本来やるべき議論の時間が短くなった。

次回は、今回の説明を踏まえた内容の議論を中心に行う。検討していくに当たって、まずは共通テーマを理解していただくことが優先として判断をさせていただいた。(未来デザイン室)

・高校生を対象に実施されたオンラインでの会議がホームページで公開されているが、高校生のアイデアや視点が素晴らしかった。担い手の育成を考える上でも、情報を共有していただきたい。

長期ビジョンを検討する際に、高校生と大学生を対象とした会議をオンラインで開催した。とりまとめた内容を今後共有させていただく。(未来デザイン室)

・地域の担い手、地域コミュニティの活性化のために学校でできることを少しずつ始めている。コミュニティカレンダーの配布や、地域活動・防災活動に参加することが大切であることを生徒に伝えている。地域の活動に参加するうえで大切なのは、参加の動機。また、参加したときに認められたり、役割があることも大切。活動に中学生が参加した際には、積極的に役割を振って、取組に対して評価をしてあげてほしい。それが今後の参加につながる。(川口中学校校長)

閉会

第4回地域づくり推進会議の開催日程の確認を行った。

第4回: 令和4年(2022年)9月10日(土)9:30~12:00

以上